教えて善さん Vol.3

EV（電気自動車）とリフォーム

エネルギーリフォームはブルーオーシャン

前回、EV（電気自動車）の普及で、エネルギーを中心に考えたリフォーム工事が増えるという予測をお伝えしました。今回は詳しくそのことを善さんに聞いていきます。関心の高まるエネルギー問題やそれを取り巻く住宅事情について、スマートハウスの専門家である善さんによる連載3回目。今回のテーマはエネルギーリフォームについてです。

Q 今後EV（電気自動車）を購入される方が増え続けることで、水回りや外壁ではなく、エネルギーを中心に考えたリフォーム工事が増えることになるとのことですが、それはなぜですか？

A 2035年にこの国ではPHEV（プラグインハイブリッド）とEVの販売しかできなくなることはご存じかと思います。私もEV（日産「サクラ」「リーフ」「アリア」）に乗っています。しかし私自身も航続距離と充電時間には満足はできていません。

それでもなぜEVを所有するのか？

1つ目は、この国で電気が逼迫した時にEVに蓄えた電気を高額で売電できるという、経産省が推し進める「DR（ディマンド・リスポンス）」「VPP（バーチャルパワープラント）」社会を見据えているからです。

2つ目は、EVを「走る蓄電池」、いわゆる住宅設備として捉えると、インセンティブのもらえる賢い暮らし方ができるからです。そして何より、電気を買わない暮らし、停電しない暮らしができるのです。

3つ目は、EVの普及はカーボンニュートラル、エネルギー問題といった社会問題解決の一助になるからです。だからこそ、国が多額の補助金を出して普及を進めています。

ガソリン車は家で駐車する際に給油口を開けたまま駐車はしませんが、EVは駐車時に充電ポートを開けたまま駐車します。雨が降る日は、野天で充電は漏電の観点からできませんし、暑い日に野天では輻射熱で充電できません。

こうしたEVのデメリットを解決するのがエネルギーリフォームのひとつです。

今後広がるEV社会に対応するエネルギーリフォームは、リフォーム業界最後に残されたブルーオーシャンであり、エネルギーリフォームで抜きんでるには、「DR（ディマンド・リスポンス）」「VPP（バーチャルパワープラント）」「FIP制度」を理解することが必須です。

エスイーエー
加藤善一 社長

独自の技術によるスマートハウス「Smart2030零和の家®」を全国の工務店に波及する。2021年絆ジャパンとの提携により参画企業も150社を超える。新築のみならず既存住宅のスマートハウス化を訴求している。